

北方町文化財報告書第7集

はやひのみね

速日峰地区遺跡 IV

平成6年度県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書

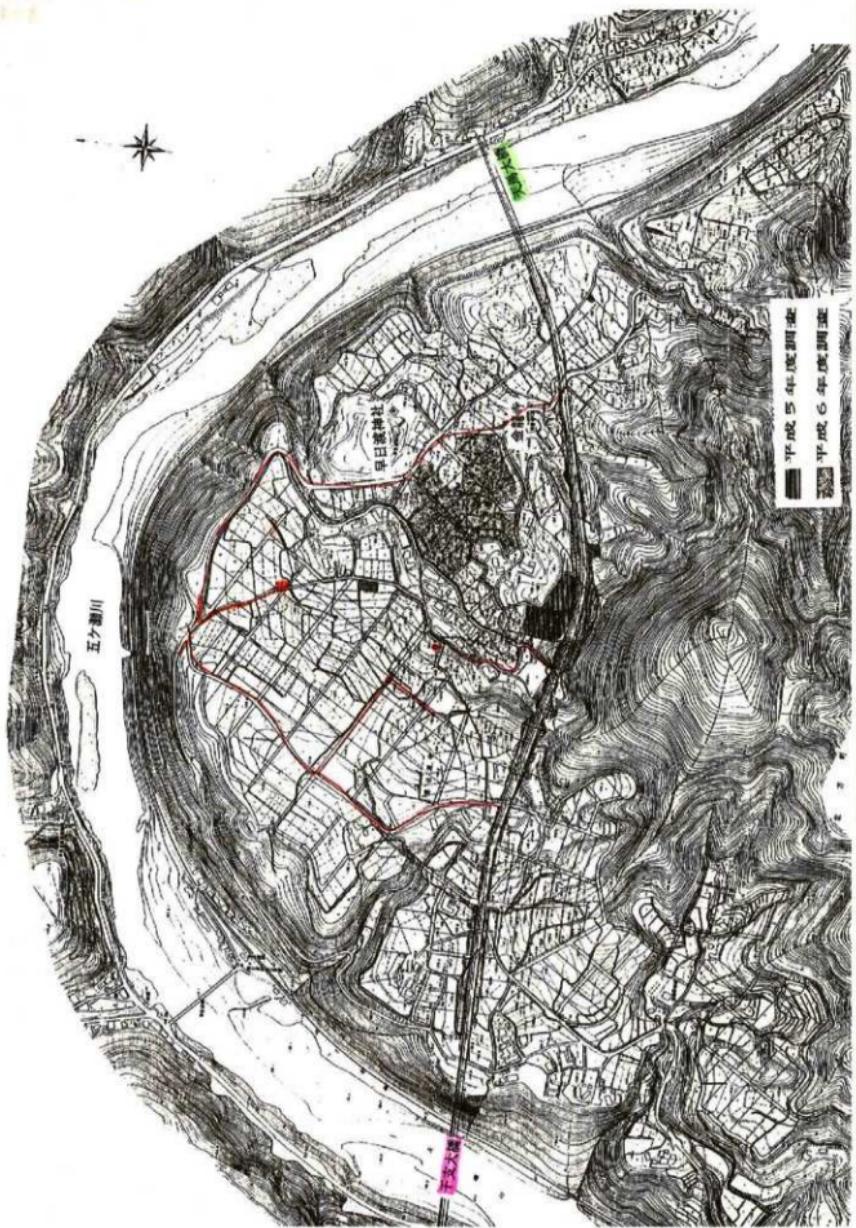
1995年3月

宮崎県東臼杵郡北方町教育委員会

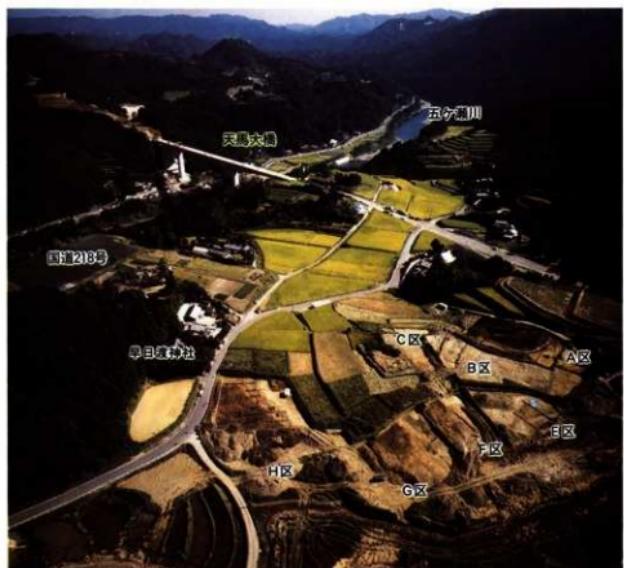
正誤表

本文中に誤りがありました。お詫び申し上げ、下記の通り訂正致します。

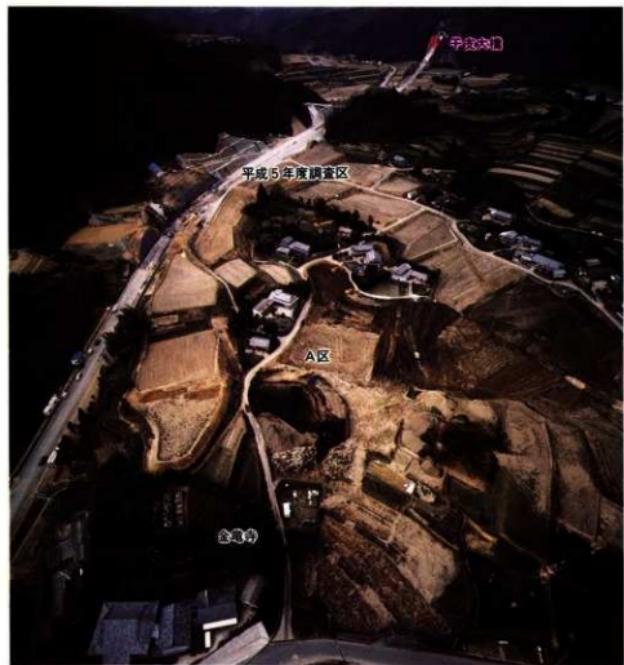
頁	行	誤	正
例言		4. 遺構・遺物は小野が撮影した。	(追加) 空中写真は藤スカイサーベイが行った。
1	2	1. 調査に至る経緯	1. 調査に至る経緯
	8	平成6年1月20日より3月20	平成6年8月1日より平成7年3月20
8	12	石錐	石錐
	17	不着	付着
	21	杯部	坏部
10	5	A区は北	A区は東側
	11	D区は西側	D区は南側
	19	西側の谷へ	北側の谷へ
15	3 ~4	高杯	高坏
17	7	精製黒色磨研	黒色精製磨研
	9	堅穴住居跡	堅穴住居跡
	11	堅穴住居跡	堅穴住居跡
	13	一面のみ使用で	一面のみの使用で
	32.	出土遺物 3 右の写真を追加して下さい	
18	2	平成6年度	平成5年度
	8	検出したものの、遺物が	検出した。遺物は
20		市町村コード	454265



1. 平成 6 年度
調査区空中写真
(北西上空より)



2. 平成 6 年度
調査区空中写真
(東側上空より)



序

北方町教育委員会では、東臼杵農林振興局の委託を受けて、平成2年度から早中・
はやなか
はやしも
早下地区内に所在する速日峰地区遺跡の発掘調査を行っています。今年度は、早
下地区工事に伴う2ヶ所を調査致しました。

調査の結果、縄文時代の集石遺構や古墳時代の住居跡をはじめ各時代の土器や
石器・陶磁器・明鏡等を多数発見することができ、当時の人々の暮らしやその地
域での文化の形成過程を知る上で貴重な資料を得ることができました。

調査にあたり、御協力をいただいた関係機関ならびに関係者の各位に対し厚く
御礼申しあげますとともに、本書が文化財に対する認識や理解のため、また、研
究の資料として活用されることを願うものであります。

平成7年3月31日

北方町教育委員会

教育長 河野達也

例　　言

1. 本書は、速日峰地区県営圃場整備事業に伴い、平成6年1月20日より3月20日までの第1次調査及び平成6年8月1日より平成7年3月20日まで実施した第2次調査の埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 本調査は、東臼杵農林振興局の委託を受けて、北方町教育委員会が実施した。
3. 現地の実測図は小野信彦、黒木小夜子・佐藤きみえ・原田洋子・橋本継美・甲斐美智代（北方町）、小谷桂太郎・室永圭三（別府大学）が行った。
4. 遺構・遺物は小野が撮影した。
5. 遺構・遺物の実測・トレース等は主に小野が行い、佐藤きみえ・黒木小夜子・原田洋子・橋本継美・甲斐美智代（北方町）、小谷桂太郎・室永圭三（別府大学）の協力を得た。
6. 石材の鑑定に関して、足立富男氏（門川町）・宍戸章氏（宮崎市）の御教示を受けた。
7. 本書に使用したレベルは海拔高で、方位は磁北で示した。
8. 本書の執筆・編集は小野が行った。
9. 題字は圖師正明氏（北方町教育委員会）の揮毫による。
10. 出土遺物や写真・図面については北方町教育委員会で保管している。

目 次

本文目次

Iはじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
II調査の内容	4
1. 調査の概要	4
2. 基本層序	4
3. 平成5年度の調査	5
4. 平成6年度の調査	10
IIIおわりに	18
報告書抄録	20

挿図目次

1. 調査区空中写真（北西上空より）	卷頭カラー
2. 調査区空中写真（東側上空より）	卷頭カラー
3. 遺跡位置図（1/25,000）	2
4. 調査区位置図（1/2,000）	3
5. 土層写真（H区・北壁）	4
6. 遺構一覧表	5
7. 調査区遠景（東より）	5
8. 遺構配置図（1/200）	6
9. 積穴住居跡（東より）	7
10. 積穴住居跡（北東より）	7
11. 土坑（東より）	7
12. 柱穴群（北西より）	8
13. 出土遺物（平成5年度調査）	9
14. 調査区遠景（北西より）	10
15. A区（上が北）	11
16. C区（西より）	11
17. D区（東より）	11
18. E区（南より）	12
19. F区（上が北）	12
20. G区（上が北）	13
21. H区（上が北）	13
22. J区（東より）	13
23. 烧石群（南より）	14
24. 集石遺構（東より）	14
25. 積穴住居跡（北より）	14
26. 積穴住居跡（東より）	15
27. 土坑（北東より）	15
28. 土坑（北より）	15
29. 組石遺構（北西より）	16
30. 溝状遺構（東より）	16
31. 烧土集中部（西より）	16
32. 出土遺物（平成6年度調査）	17
33. 造成完了（上…平成5年度調査、下…平成6年度調査）	19

I. はじめに

1. 調査に至る経過

宮崎県東臼杵農林振興局では、昨年度に引き続き、早下地区での圃場整備事業を実施するために、宮崎県教育委員会に工事予定地区的埋蔵文化財の有無についての照会を行った。工事予定地区内については、平成2年度の工事実施に伴う分布及び試掘調査で遺跡の所在が明らかになっていたため、個人の工事分については11月からとし、工事によって影響を受ける部分の記録保存のための発掘調査を実施することになった。

調査は、宮崎県東臼杵農林振興局の委託を受けて北方町教育委員会が、平成6年1月20日より3月20日まで実施した。この調査は、諸般の都合により平成5年度工事分の2次調査にあたる。第1次調査は、平成6年1月20日より3月20日まで実施している。

また、平成7年になってからさらに工事の追加が生じたため、追加分については平成7年2月13日から3月31日まで発掘調査のみを行い、整理調査及び概要報告書の作成は平成7年度に実施することとなつた。

2. 調査の組織

調査の組織は以下の通りである。

調査主体 北方町教育委員会

教 育 長 河 井 行 雄 (平成6年9月30日まで)

河 野 達 也 (平成6年10月1日より)

教 育 次 長 甲 佐 魁

社会 教育 課 長 亀 長 馨

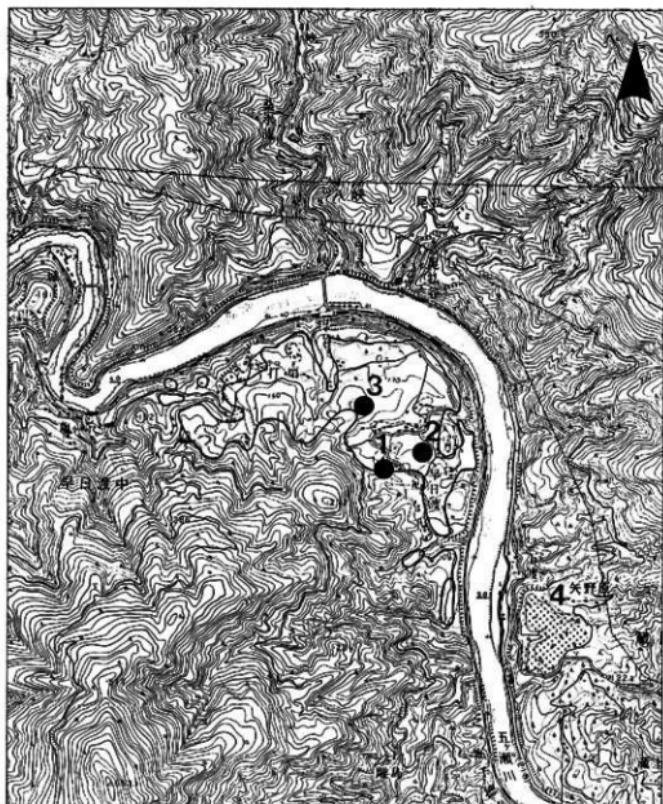
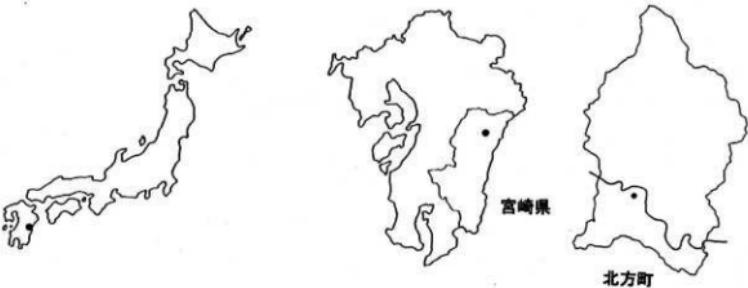
事務担当 社会教育課長補佐 黒 田 幸 年

調査担当 文 化 財 係 長 小 野 信 彦

調査指導 宮 崎 県 文 化 課

調査協力 (順不同)

宮崎県東臼杵農林振興局農地整備課、宮崎県文化課埋蔵文化財担当者各位、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者各位、近藤協氏(宮崎県総合博物館)、長津宗重氏(宮崎県埋蔵文化財センター)、沢臣氏(北川町)、橘昌信氏(別府大学)、速日峰土地改良区及び地元関係各位、宮崎県農業開発公社。



3. 遺跡位置図(1/25,000)



4. 調査区位置図(1/2,000)

II. 調査の内容

1. 調査の概要

本遺跡は、標高約120m～140m程の狭小な丘陵上に位置している。

工事面積2.6haのうち、平成5年度に2,000m²を、平成6年度に14,500m²（当初調査8,500m²、追加調査6,000m²）の遺構に影響を受けると考えられる部分についてのみ調査を実施した。

当地域はかなりな急傾斜地形であり、或いは造成のため遺構の存在が危ぶまれたが、予想に反して旧地形と共にかなり良好な状態で保存されていた。

2. 基本層序

基本層序は以下の通りである。

I層…表土層若しくは耕作土（約20cm）

II層…床土（約10cm）

III層…埋土（約20cm～1m）

IV層…茶褐色土層（約20cm）

V層…黒色土層。バサつく。（約30cm）上部より主に縄文時代晚期の遺物や須恵器・陶磁器等の遺物が出土。

VI層…アカホヤ層（約20cm）

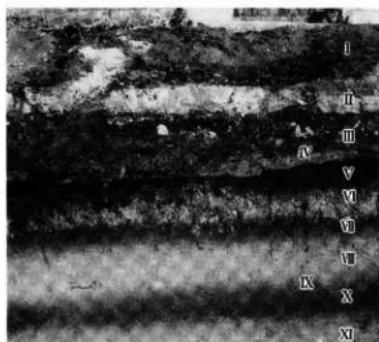
VII層…黒褐色土層。（約20cm）やや粘質。縄文時代早期の遺構と遺物が出土。

VIII層…黄褐色土層。（約20cm）粘質。旧石器時代の遺物が若干出土。

IX層…A T層（約20cm）

X層…黒褐色土層。（約20cm～50cm）やや粘質。3～5cmのブロック状。

XI層…黄茶褐色土層。粘質。小砂利を含む。



5. 土層写真(平成6年度調査、H区、北壁)

3. 平成5年度の調査

1. 調査の概要

調査は、時期的な問題もあり県文化課の試掘調査で包含層が確認されたところを中心にして約2,000m²を行った。調査区は標高138m付近の狭小な尾根の端部に位置する。遺構面は水田面から20~40cmの深さで検出されたが、大部分が水田の造成時のものと思われる削平を受けている。

遺構は、かろうじて傾斜によって埋め立てられ削平を免れた尾根の端部と斜面部において検出した。埋土は深いところで1mをこえる。

また、斜面においてアカホヤ層が確認され、上面で多数の柱穴群を下部で縄文時代早期の包含層が検出された。

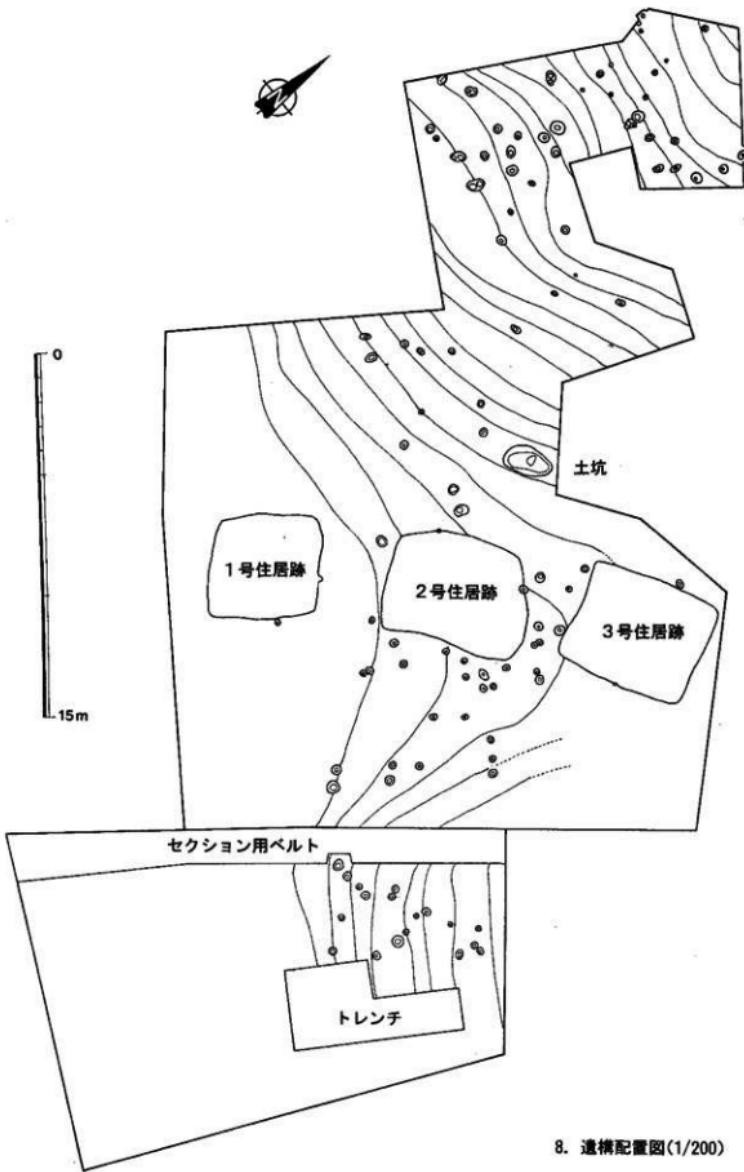
今回検出した遺構は、古墳時代前期の竪穴住居跡3軒と時期不明の土坑1基及び柱穴多数である。各遺構についての詳細は6に配置図は8に示す通りであるが、竪穴住居跡は地形による制限を受けたためか狭小な尾根に寄り添うように並んで営まれている。

遺構名	主柱穴	平面形	規 模			内 部 施 設				備 考
			長軸m	短軸m	深さm	面積m ²	焼土	炭化物	土坑	
1号竪穴住居跡	4	長方形	5	4.4	0.2	22	○	○	○	貼床 周辺にベッド、南側半分は削平、
2号竪穴住居跡	4	長方形	6	4.4	0.5	26.4	○	○	○	貼床 周辺にベッド、北側に土坑、炭化材が出土、
3号竪穴住居跡	2	方 形	5	4.4	0.4	22	○	○	○	東隅に段がつく、
1号土坑		長方形	1	0.5	0.5					中央部が開む、

6. 遺構一覧表



7. 調査区遠景(東より)



8. 遺構配置図(1/200)

2. 遺構

竪穴住居跡

尾根上の端部に位置するという地形的条件によるためか、3軒の住居跡が一列に並んで検出された。8の遺構配置図が示す通り、若干東側に主軸方向がずれる。

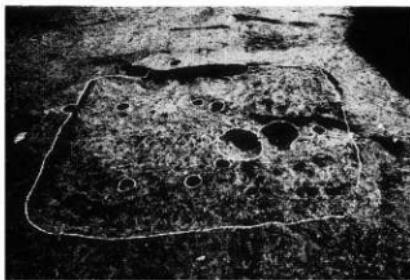
1号住居跡(10)は造成によって南側半分が削平されている。周辺にベッド状遺構が見られ、貼床が残る。遺物としては、砂岩製の砥石、甕等がある。

2号住居跡はややいびつな長方形を呈する。東隅で炭化材が出土している。北壁に直径約1mの土坑があり敲石が3点出土している。周辺にベッド状遺構があり、貼床もみられる。出土遺物には、砂岩製の石鎌、高坏等がある。

3号住居跡は、主柱穴が2本で平面形がほぼ正方形を呈するが、北端が一部凹む。東隅に浅い段がつき、ベッド状遺構や貼床は見うけられない。出土遺物には砂岩製の敲石・石斧・高坏等がある。



9. 竪穴住居跡(東より)



10. 竪穴住居跡(北東より)

土坑

調査区中央部の尾根が傾斜し始める斜面において検出された。ほぼ長楕円形を呈している。土坑に伴うピット等は検出していない。内部より千枚岩の礫が若干出土しているが、壁面にくい込んでいるものもあり、縄文早期の包含層を掘り込んだ為と思われる。中央部が凹み二段掘りになっている。埋土はV層の黒色土で出土遺物はない。



11. 土坑(東より)

柱穴群

2号堅穴住居跡の周辺と、斜面部において多數の柱穴群を検出したが、掘立柱建物等に復元できなかった。また遺物の出土もなかつた。



12. 柱穴群(北西より)

3. 遺 物

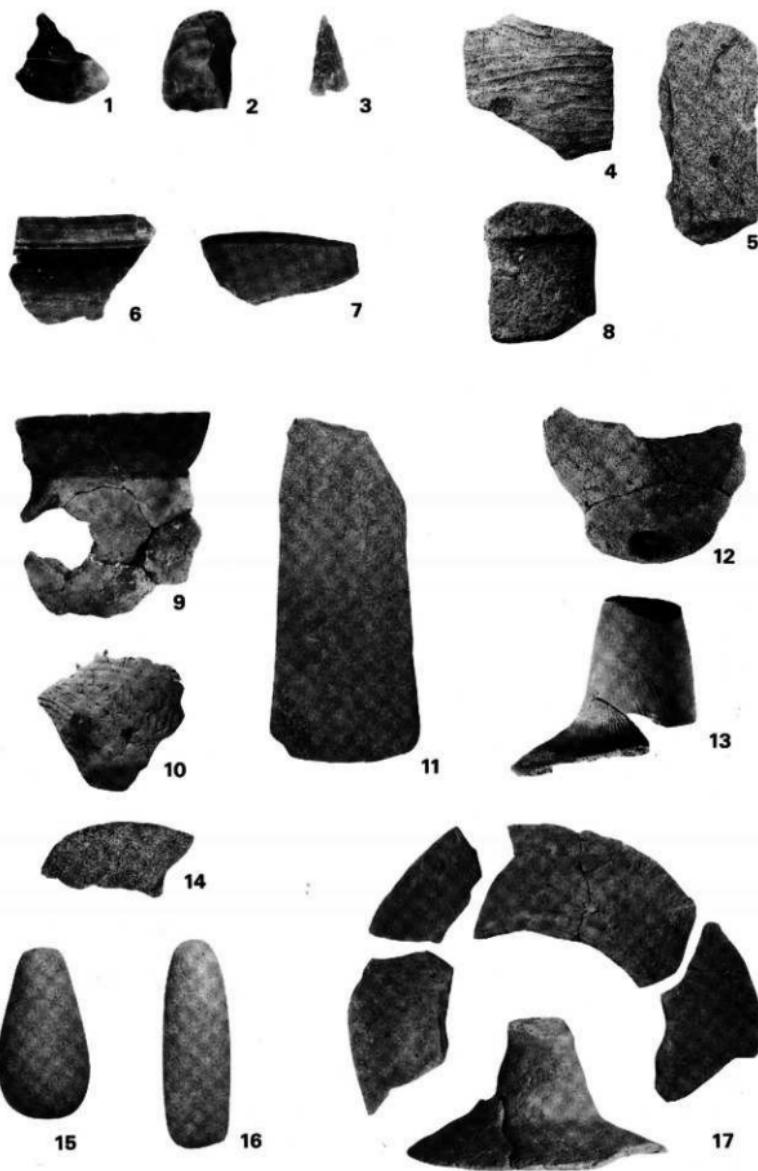
出土遺物は量的には多くはない。主に、客土の下の黒色土層中より縄文時代晩期の遺物が、アカホヤ層下位の黒褐色土層より縄文時代早期の遺物が出土した。それ以外は、住居跡内の出土である。ここでは代表的なものをとりあげる。

1と2はVII層、3~8はV層、9~11は1号住居跡、12~14は2号住居跡、15~17は3号住居跡内の出土である。

1は石錐、2はスクレイバーである。石材はチャートである。3は大分県姫島産黒曜石を使用した石鎌である。4は条痕文土器である。表裏共に横方向に貝殻条痕文が施される。5は砂岩製の扁平打製石斧である。基部が欠損している。6と7は黒色精製磨研土器の浅鉢片である。6は口縁部内面に1条の沈線を施し、横方向には丁寧なヘラ磨きが施されている。8は粗製深鉢片である。口縁部の外面向下を肥厚させて口縁部を形づくり、その口縁端をややラッパ状に尖鋭化させて丸くおさめている。ススが不着する。

9は甕である。頸部から口縁にかけて、やや開くように直行している。端部はほぼ平坦である。調整は斜め方向のハケ目のうち横方向のナデが施されている。外側口縁下部にススが付着する。胸部の一部は熱による赤変が見られる。10は甕の底部である。タタキが残る。底部と胸部の稜は明瞭でない。11は砂岩製の砥石である。中央部がやや凹む。12と13は高坏である。12は杯部はやや外反しながら伸びる。上半部と下半部の段は明瞭でない。調整は内外面ともにナデを施すが、焼成は悪い。13の脚部は中央部がややふくらみエンタシス状を呈する。外面にはハケとナデが、内面にはナデと絞りを施している。14は砂岩製の石鎌と思われる。中央部で欠損している。調整は粗い。

15~17は3号住居跡の出土遺物である。15は砂岩製の乳棒状石製品である。両端部には敲打痕が見られ、太い方にはベンガラと思われるものが若干付着している。16は小型の磨製石斧あるいは石ノミと思われる石器である。片面を丁寧に研磨している。基部に整形のためと思われる敲打痕が、刃部には齒こぼれが見られる。17は高坏である。口縁部はやや上方に伸びる。坏部と口縁部の境は明瞭でない。脚部は13と同じくエンタシス状を呈する。調整は坏部は内面外ともに横方向のナデ、脚部は外面に斜め方向のナデ、内面にナデと絞りが施されている。焼成は悪い。ベンガラが付着している。



13. 出土遺物(平成5年度調査)

4. 平成6年度の調査

1. 調査の概要

県営圃場整備事業により切り土となるところを中心として調査区を設定し、各地区にトレーナーを設けた。調査区は両側を谷に挟まれた丘陵上に位置する。調査区は便宜上A～J区に分けた。

A区は北の谷部に位置する。谷の落ち際より方形プランと圓プランの古墳時代の住居跡が検出された。

B・C区は尾根が北側へ緩やかに傾斜するところに位置する。B区ではチャート製の剥片が若干出土したのみであった。C区ではアカホヤ層の下部より縄文時代早期の押型文土器片やチャート製の剥片が若干出土した。また、柱穴が水平に削平された部分より検出されたが、建物を復元するまでには至らなかった。

D区は西側の谷の裾部に位置する。柱穴等が傾斜部より検出された。

E・F・G区は、西側の谷へ傾斜する尾根の端部に位置する。E区では方形プランの古墳時代の住居跡と時期不明の土坑が1基検出された。

F区では、東側の一部にアカホヤ層が検出され下部より縄文時代早期の押型文土器片やチャート製品の剥片が若干出土した。また、中世の祭祀遺構が5基検出された。ほぼ同時期と思われる土坑7基、掘立柱建物3軒、焼土集中部3か所等も検出された。G区では、F区とつながるものと思われるアカホヤ層が検出され、下部より縄文時代早期の押型文土器片やチャート製の剥片が若干出土した。また、時期は不明であるが、土坑2基、不明遺構1基、焼土集中部2か所を検出した。

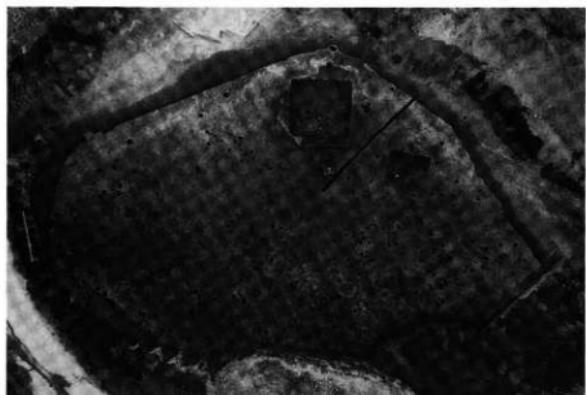
H区は、西側の谷へ緩やかに傾斜するところに位置する。方形プランの古墳時代の竪穴住居跡2軒、詳細な時期は不明であるが、土坑6基、掘立柱建物2軒、焼土集中部2か所などが検出されている。

I区は、砂利置き場のために削平される部分を緊急調査したものである。アカホヤ層が検出され、下部より縄文時代早期のチャート製の剥片等が若干出土した。

J区は、道路事情やぬかるんだ谷のために重機が搬入できず、工事と併行しながら行った。調査の結果、一部でアカホヤ層が検出され、下部より縄文時代早期の集石遺構1基と礫群が検出され、中より押型文土器片やチャート製の剥片等が若干出土した。また、時期は不明であるが、土坑1基、溝状遺構1基、焼土集中部1ヶ所を検出した。



14. 調査区遠景(南東より)



15. A区(上が北)



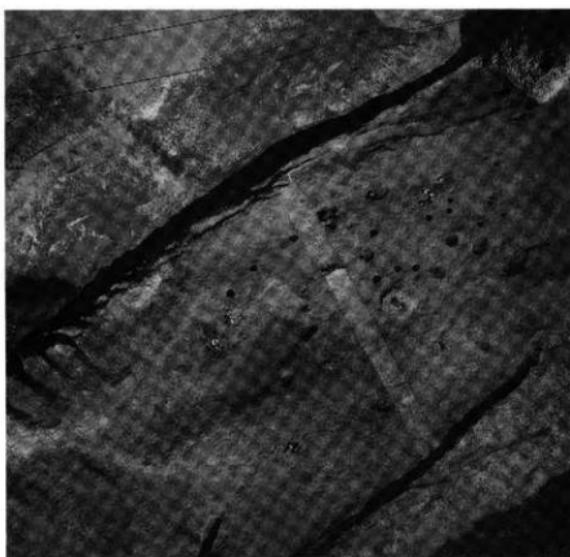
16. C区(西より)



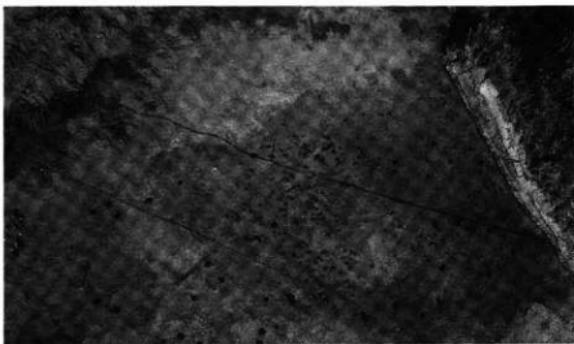
17. D区(東より)



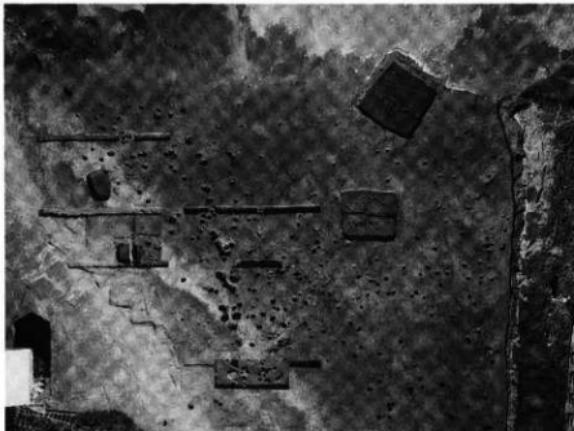
18. E区(南より)



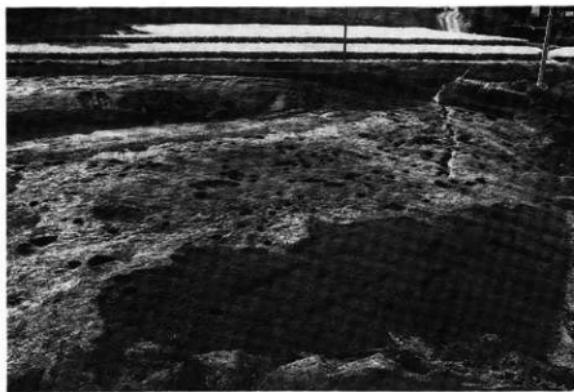
19. F区(上が北)



20. G区(上が北)



21. H区(上が北)



22. J区(東より)

2. 遺構

① 縄文時代

礫群

礫群はC、F、G、H、J区で検出しているが、中でもJ区の礫群(23)は北東方向に緩やかに傾斜する斜面に、焼けた角礫が大量に検出された。平成3年度に調査されたJ区とよく似た状況を呈する。礫群からの出土遺物は少なく若干の剥片や土器類が出土したのみであった。また、礫群中に集石遺構が1基検出されている。大量の礫と出土遺物の量の少なさ等から集石遺構に伴う準備礫あるいは廃棄礫に相当するのではないかと考えられる。

集石遺構

集石遺構はJ区で礫群中より検出された。長軸1.2m、短軸1m、深さ20cmの長梢円形を呈する土坑のなかに20~30cmの扁平な千枚岩が配列されている。礫は全て焼けている。遺物等の出土はない。

② 古墳時代

竪穴住居跡

竪穴住居跡は全調査区で5軒検出されているものの、各調査区で1~2軒程度の検出である。A区での凹形(26参照)及び張出部がつく竪穴住居跡を除いてほぼ平面形プランを呈する。床面は平坦面をなし、貼床はH区の2基を除いて認められない。主柱穴はA区の凹形住居跡の2本を除き4本である。床面からの深さは平均30cm前後である。付属施設にはベッド状遺構、焼土、土坑等がある。ベッド状遺構はA区の凹形のへこむ部分が若干それらしく感じる程度で他には認められない。焼土はいずれも堆積が5cm前後と浅く、明確な掘り込みを持たない。



23. 矢 群(南より)



24. 集石遺構(東より)



25. 竪穴住居跡(北より)



26. 壑穴住居跡(東より)



27. 土坑(北より)



28. 土坑(北より)

土坑内よりの出土遺物は少なく若干の土器片が出土したのみであった。土坑内に焼土・炭化物ともに認められない。出土遺物には高杯・甕などの土器類、砥石・叩き石などの石器類がある。

③ 中世

土坑

土坑は20基近くを検出したが、半数以上は出土遺物がなく時期等は特定できない。しかし、出土遺物を有する土坑のすべてには中世の陶磁器等が出土している。

特異な土坑としては(27)の斜面の下側に焼土と炭化物が集中し、回りに溝が巡るものや、精円形プランのやや深めの底の一部に焼土と炭化物が集中するもの(28)がある。どちらも遺物がなく、時期等詳細は不明である。

掘立柱建物

本遺跡では、かなりの柱穴群を検出した。その中で掘立柱建物に約5軒程復元したが、その多くは1間×1間若しくは1間×2間のごく単純な構造である。さらに検討を加えれば、まだかなり復元が可能であると思われる。柱穴内よりの遺物の出土は、一部を除きない。

祭祀遺構

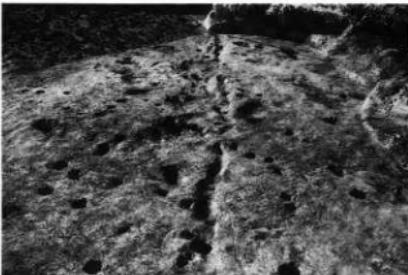
人頭大の凝灰岩及び砂岩礫（中には扁平な千枚岩を利用したものもある）を寄せ集めているもので、中から打ち割った石臼や陶磁器等が出土している。礫には火を受けたためか赤変しているものがある。土坑の深さは20cm前後と浅い。墓あるいは何らかの祭祀に伴うものではないかと思われる。



29. 祭祀遺構(北東より)

溝状遺構

J区ではほぼ東西に走る細い溝状遺構を検出したが、時期を特定できる遺物の出土がなく、また埋土は砂混じりで若干新しい印象を受けた。端部に若干柱穴が巡るようでもあるが、溝状遺構との関連は不明である。



30. 溝状遺構(東より)

焼土集中部

本遺跡では、8ヶ所の焼土集中部を検出した。全てV層上面もしくはV層内部での検出である。掘り込みではなく、一部を除き、焼土が若干堆積する程度のものである。焼土内より出土遺物は無い。



31. 焼土集中部(西より)

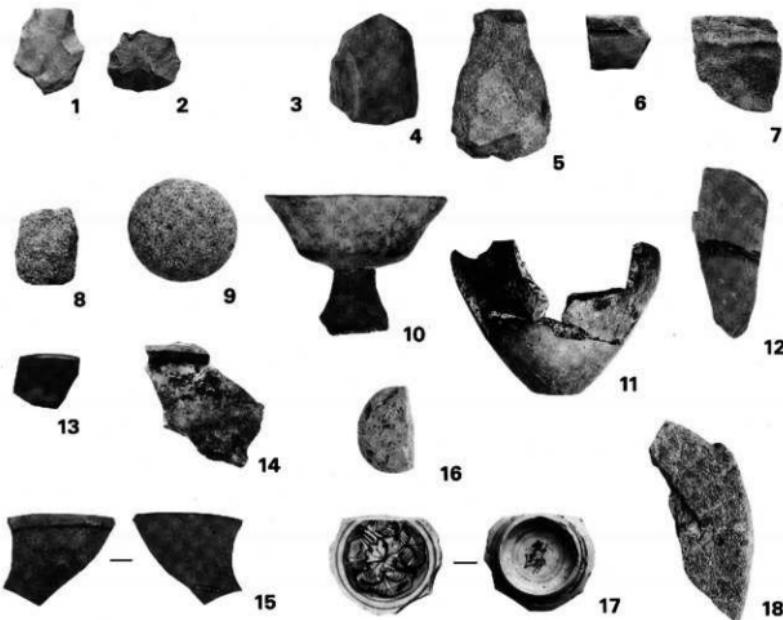
3. 遺物

主にV・VII層及び堅穴住居跡等の遺構内より出土しているが、今回は代表的なものを取り上げる。

1は流紋岩製の使用痕剥片である。C区VII層より出土。打面を有し、自然面が残る。2はホルンフェルス製の使用痕剥片である。打面調整を施し、自然面が残る。3は押型文土器の胴部片である。表面には横方向に山型押型文、裏面にはナデを施す。C区VII層より出土。4は拳大の礫の3方向に表裏から加工を加えた頁岩製の礫器である。5は砂岩製の扁平打製石斧である。バチ型を呈し、自然面が残る。A区VII層より出土。6は精製黒色磨研土器の浅鉢片、7は粗製深鉢片である。8は打製石斧の先端部、9は磨石で側面に敲打痕が残る。ともに砂岩製でJ区のVII層より出土。

10はH区の堅穴住居跡(25)より出土した高坏である。坏部と口縁部の境に明瞭な稜は見受けられない。口縁部はやや上方に長く伸び気味である。調整は内外面ともにハケメとナデを施している。坏部の稜直下にタタキ痕が残る。11はA区の堅穴住居跡(26)より出土した鉢である。口縁部は緩やかに斜め上方に伸び、口唇部でわずかに内湾する。底部は上げ底気味で、内外面ともにヘラ磨きである。

12は砂岩製の砥石である。一面のみ使用で、よく使い込まれ中央部が凹んでいる。13は口唇部が内湾する青磁碗片である。14は鏃釜である。内外面ともにハケメとナデを施している。ススが付着する。15はすり鉢である。口縁部には内外面ともに横ナデが施されている。16は軽石製の石製品である。丁寧な研磨が全面に施されている。17は染め付けの皿である。底部に『大明年造』の銘がある。18は凝灰岩製の石臼である。13と15は土坑より、16は柱穴内、14・17・18は祭祀遺構より出土している。



32. 出土遺物(平成6年度調査)

III. おわりに

平成6年度から2次にわたる調査で検出された遺構は、縄文早期の礫群3ヶ所・集石遺構1基、古墳時代の住居跡8軒、中世の掘立柱建物4軒、祭祀遺構6ヶ所、時期不明の溝状遺構1ヶ所、中世を含めた土坑・柱穴多数である。遺物は各時代にわたって出土しているが、量的に多くはない。

旧石器時代の遺物集中ヶ所は今回も検出されず、縄文早期の遺物に混じって数点の石器が出土したのみであった。しかし、五ヶ瀬川を挟んだ対岸の矢野原地区で県文化課及び町教委による発掘調査で良好な包含層がみつかっており、今後の調査に期待がもてる。

縄文時代では早期の礫群3ヶ所・集石遺構1基を検出したものの、遺物が土器石器片が若干出土するに止どった。地形的なものもあるかしれないが、新たな条件下で集石遺構が発見される可能性も高く、その対応には十分な注意が必要である。

当地域における弥生時代～古墳時代に属する住居跡の発見例は、今回の調査で14例である。早中・早下地区を合わせると25例近くになる。また、平面プランが凸・凹字形のものは、当地域では初例であり注目される。最近、五ヶ瀬川流域とくに山間部における弥生時代～古墳時代の住居跡の調査例が増加しているが、その多くは急斜面や狭小な尾根の端部といった今までに考えられなかった地形に住居跡が営まれている点が注目される。また、石包丁様石器（その多くは片面に自然面を残したり、穿孔せず両端に簡単な抉りを入れる等の共通する技術的特徴がみられる）や小型の磨製石器などは、山間部の生業の一端を垣間見るように興味深い。今後は、個々の住居跡の構造的解明や相互の関係について追及することはもちろんであるが、当時の環境などにも目を向けていく必要があろう。古代については遺構・遺物共に断片的他の時代に比べて極端に少なく、不明な点が多いのが実状である。

中世では、祭祀遺構が注目される。ほぼ人頭大の礫を、直径約1m程の大きさに寄せ集めているものであるが、礫のほとんどは熱を受けており、埋土中に焼土や炭化物の集中が見られ、まれに炭化材が検出される。出土遺物には、打ち割った石臼や陶磁器等がある。当地区に限らず、笠下遺跡^{注1}や南久保山小堀町遺跡^{注2}など町内各地でも似たような遺構が検出されている。今後は、これら相互の関係や個々の構造的な比較検討などを加えていく必要があろう。

県営圃場整備事業に伴う速日峰地区遺跡の発掘調査は今年で5年目を迎えるが、一連の調査によって新資料や新知見がもたらされ、これまで空白地帯だった当地域の歴史の解明に大きく貢献しているものの、新たな発見によって派生した問題も少なくない。また、調査が断片的で期間の確保も十分でなく、消化不良のまま調査に追われて、現地における問題の抽出、深化を十分に行うことが出来ずに終わっているのが現状である。今後は、遺跡間の環境を含めた有意義な比較検討が、同時平行ができるような対策を講じる必要があろう。

注1 北方町教育委員会 1990「笠下遺跡」北方町文化財報告書 第1集

注2 北方町教育委員会 1992「南久保山小堀町遺跡」北方町文化財報告書 第2集



33. 造成完了(上…平成5年度調査分、下…平成6年度調査分)

報告書抄録

フリガナ	ハヤヒノミネチクイセキ						
書名	速日峰地区遺跡・IV						
副書名	平成6年度県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書						
巻次							
シリーズ名	北方町文化財報告書						
シリーズ番号	第7集						
編集者名	小野信彦						
編集機関	北方町教育委員会						
所在地	宮崎県東臼杵郡北方町卯682番地						
発行年月日	平成7年3月31日						
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
速日峰地区 遺跡	東臼杵郡 北方町巳				第1次調査 1994. 1.20～ 3.20 第2次調査 1994. 8. 1～ 3.20	第1次調査 2,000 第2次調査 8,500	県営圃場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
速日峰地区 遺跡	古墳時代 及び中世 の集落跡	縄文時代早期 古墳時代前期 中世	集石遺構 豊穴住居跡 掘立柱建物 祭祀遺構 溝状遺構	1基 8軒 5軒 5ヶ所 1基	旧石器時代剥片 繩文土器・石器 弥生土器・石器 中世陶磁器・石臼	人頭大の焼けた砾を 寄せた祭祀遺構が注 目される。中より青 磁や炭化物等が出土	

速日峰地区遺跡

IV

北方町文化財報告書

第7集

平成7年3月31日

発行 北方町教育委員会

宮崎県東臼杵郡北方町卯682

印刷 明巧堂印刷株式会社

宮崎県延岡市吉川町82-10